

宝くじ おもしろ話

「当たりそう」と好評の「店頭開運グッズ」あれこれ～「座布団編」～

どんな商売でも顧客サービスは大事だが、ユニークな「開運グッズ」を店頭において、宝くじファンに喜ばれている宝くじ店を紹介しよう。最初は「座布団編」だ。

《どうぞ、お当てください》千葉県千葉市の「県庁前チャンスセンター」は、歩道沿いの低い石垣を店舗部分だけ切り開いて設置されている。その結果、顧客の中には店の両わきの石垣部分に腰掛ける人もいた。これを見てヒラめいたそうだ。「ここに座布団を置こう」と。そして、店の左側だけに、石垣の上に金色の特製「開運ジャンボ座布団」を敷いた。そして、そばにシャレた文言の貼り紙を1枚。『どうぞ、お当てください』と。いまから20年ほど前に設置したものだが、いまなお、お客さんに好評だ。

《黄金の椅子と座布団》東京・立川市の「立川チャンスセンター」の店前にあるのは「開運・

黄金の椅子と座布団」だ。高齢のお客さんが目立つ当店。購入後にこの椅子に座ってホッと一休み。そのさい、両手で宝くじをもって、そおと当せん祈願という人も多く、これまた好評。こちらの歴史も古く、設置してから15年は経つ。

《1等と前後賞も狙う開運・座布団》四国有名なツキ売り場として有名な愛媛県松山市の「まつちかチャンスセンター」。広いスペースに恵まれている当店にあるのは、長椅子風のベンチ（長さ＝約1.5m）だ。お客さん用のこの長椅子に敷かれて

いるのが青紫色の細長い座布団（写真）で、全体が3つに区分けされ、それぞれに「祈・幸・福」

の文字が1文字ずつ黄色地で印刷されている。設置されて15年ほど経つが、目の前の売り場でジャンボ宝くじを購入後、ここに座って当せん祈願する人は多い。



ご当地クーちゃん
キューリップクーちゃん

宝くじ おもしろ話

「当たりそう」と好評の「店頭開運グッズのあれこれ～「野菜編」～

地元の特産品やその町に関連するものをアイデアゆたかに『開運グッズ』として取り上げて、顧客に喜ばれている売り場もある。ここでは、その「野菜編」だ。

《手づくりの亀戸大金（ダイコン）》東京都江東区・JR亀戸駅そばの亀戸駅前北口売場は常にユニークな開運グッズを提供する店だ。その1つが、地元名産の小ぶりでピリッと辛い亀戸大根。すべて布製の手作りで「大根」の部分は金色と銀色の縫いぐるみ。「亀戸大金（ダイコン）」と名付けて店頭で吊るしている。お客さんは宝くじ券で「大金」をさすって当せん祈願。

《「馬と人参にひかれて売り場がよい」》東京都墨田区・JR錦糸町駅そばの「錦糸町ビッグチャンスセンター」は、近くにある競馬の場外馬券売り場へ通う人の通り道にある。その結果、顧客に「馬好き」が多い。そこで考えた開運グッズが「人参」だ。馬の好物「人参」の縫いぐるみ（長さ約1m）を3本製作。これを朝鮮

人参の「高麗（こうらい）人参」をもじった造語「宝来人参」と命名した看板を製作して、店頭で3本、垂直に立てた。現在、その「人参」はないが、店の窓口に「幸運の宝来人参」の言葉を添えて、小さな縫いぐるみの馬と手作り人参を置いてる。いまや、「宝来人参」の言葉とともに、お客さんに愛されている「馬と人参」だ。

《売り場特産の億万両なす》岡山県内のツキ売り場として有名な岡山市の「藤田ダイキチャンスセンター」。店周辺の名産野菜の1つに「千両なす」の名で愛される「なす」がある。タテに切ったら、その切り口がまるで「小判」のようなことから名づけられたそう。

これをヒントに、同店では一層の運氣アップを祈願して、店

正面の上部に「ナスの大きな絵看板」（写真）を掲げ、そこに「当店特産・億万両なす」と書き込んだ。そして、店頭には「なす」の縫いぐるみをつるし、お客に喜ばれている。



ご当地クーちゃん
ねぶたクーちゃん

宝くじ おもしろ話

「当たりそう」と好評の「店頭開運グッズ」あれこれ～「1斗あ樽」～編

日本勧業銀行時代の宝くじ部OBに聞いた話だ。昭和23年ころ国鉄大阪駅前に、大きな酒の仕込み樽の店が登場。その樽全体に赤ペンキが塗られて真っ赤。壁の一部を切り抜いて売り場窓口があり、わきに貼り紙が1枚。「当たる！当たる！」（赤樽！赤樽！）というしだい。これをヒントにしたかどうかは、わからないが「開運グッズ」として、店頭には酒の「1斗樽」を置いている売り場がある。

《「1等あ樽」と書いた「1斗樽」》岐阜県美濃加茂市の「平川たばこ店」の店頭には名物の開運グッズがある。台座の上に納まる酒の「1斗樽」。その上蓋と胴体に堂々と墨書きで「一等あたる」の文字。「あ」の字だけ「赤字で白くフチ取り」され、さらに「あたる」の「たる」の字の上に赤の注意点が…。これで「1等当たる」というしだい（写真）。手のこんだ作りで驚く。

店頭はこのほか多数の開運グッズがあるが、同県大垣市の特産・木製マス（枺）もスゴイ。

酒や米など100合入る正方形の特製「1斗マス」と、もう1つ半分の量（50合）のマスを作り、1斗マスの中に「50合マス」を「十の字」を書くようにはめ込み、台座に乗せて店頭に飾った。これで「1等マスマス当たりマスように」というしだいだ。

《「店名」そのものが開運グッズ》岩手県盛岡市の有名ツキ売り場「宝くじ神社チャンスセンター」。創業45年余の当店は「店名」そのものが驚きの開運グッズだ。現在の店舗はビルの中にあるが、開店当初は大通りに面して、まるで神社の社殿風の店構えで登場。正面には赤い鳥居があり、その下が販売窓口だった。

店入口に、いまも朱色の鳥居がある。そして、店内の売り場窓口は社務所風で、このほか店のあちこちに多数の開運グッズあり、その中に当店にも「1等あ樽」も存在していた。岐阜県の平川たばこ店とは知り合いで、情報交換していたようだが、びっくり。



ご当地クーちゃん
ぶどうクーちゃん